

構想から6年「西3・9」終了

5棟整備 コメダ珈琲9日開店

旧イトーヨーカドービル周辺の「帯広市西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業」で、自走式立体駐車

場が完成し、2月末でマンションや店舗棟も合わせた5棟すべての施設整備を終えた。構想発表から6年。今後、新たなまちの顔としてにぎわい創出などの役割も求められる。9日には整備した店舗棟内に人気チェーン「コメダ珈琲店」が開店する。

同再開発事業は、長年「塩漬け」だった同ビルを取得した不動産開発のアルファコート（札幌市）が、2016年に構想を発表。特別目的会社を作り、同ビル周辺の約2畝の建物を解体し、再整備した。

20年には新・帯広経済センタービル（5階建てと7階建ての2棟）と、19階建て分譲マンション「ザ・タワー帯広」が完成。昨年11月には店舗棟「帯広3・9スクエア」の建設が完了していた。

コメダ（名古屋）が全国展開し、十勝初出店となる「コメダ珈琲店 帯広西3条通り店」は、店舗棟1階に9日午前7時オープンする。立体駐車場は宮坂建

設工業（帯広市）グループの登寿ホールディングス（同）が管理し、4階建て288台。今月22日からコインパーキングを先行オープン、全面稼働は4月1日。マンションは不動産開発



9日にはコメダ珈琲もオープンする、西3・9スクエアなどの新規建物群（塩原真撮影）

マンションは不動産開発大手のフージャースコーポレーション（東京）などが管理し、147戸は完

売。アルファコートによると、同社が管理する経済センタービル西棟は商談も含め、面積ベースで約8割が入居を予定し、店舗棟も同様の割合で出店が計画されているとする。

同社では現在、事業完了資料を製作中で、記念事業などの実施は未定。樋口千恵専務は「行政や経済界などの協力もあり、無事に竣工（しゅんこう）できた。今後もテナント誘致などを継続し、地域のにぎわい創出に貢献したい」とする。総事業費は国や市の補助

金も入り、約104億円。市の米沢則寿市長は「再開発を機に、帯広の将来への可能性が高まり、まちなか

の活性化につながるものと期待している」などと話している。（佐藤いづみ、津田恭平）